

■はじめに

本文は議事というよりも報告となっている。青年活動に関係ある内容を記録として残させて頂く。そのため「簡易報告」という表現をすることご了承頂きたい。

第 32 回評議員会簡易報告

■日時 2014 年 1 月 18 日（土） 15：15～18：15

■場所 大手町サンスカイルーム 24 階（E 室）

■主内容

- ・ 第 31 回評議員会議事要録の承認
- ・ 日ユ協連の事業報告（2013 年 10 月～12 月）
- ・ 各種委員会からの報告 参照：委員会の進捗-20140114.docx
- ・ SWOT 分析の説明
- ・ 質疑応答
- ・ 理事・評議員情報交換会

■記録 ※個人名敬称略

1. 大学ユネスコクラブのネットワークに関する問題提起（玉川大学ユネスコクラブ 小林）

- ・ 現状大学ユネスコクラブは、地域ユネスコ協会青年部と個別の連携は取れているが、全国的ネットワークとしては弱い。
- ・ ユネスコクラブ全国サミットにて挙げたネットワーク案
 - ①大学ユネスコクラブ独自で活動ネットワークを作る
 - ②全国的青年連絡組織に入る→②の場合、現状大学ユネスコクラブ所属メンバーの殆どが構成団体会員ではない。
- ・ 全国的青年連絡組織に組み込む場合、日ユから大学ユネスコクラブに対して積極的な構成団体会員への加盟促進をお願いしたい

<回答（松田会長）>

- ・ 若者が活動に取り組まなければ未来はないため、ネットワークはどんな形態でも構わない。いかなる形でも日ユとしては協力に応じるため、改めて協議させてほしい。

2. 高校教員ネットワークへのアプローチ依頼（大分ユネスコユース 佐藤）

- ・ 12 月九州青年交流研修会への参加者の半分＝高校生（30 人中 15 人程）だった。各校の先生が熱心であることが大きい。そのため高校教員のネットワークは非常に重要であると改めて感じたため、日ユとしての積極的アプローチをお願いしたい。

3. 2014年ユネスコ子どもキャンプの開催可否について（岐阜県ユネスコ協会 平井）

- ・本資料上、2014年ユネスコ子どもキャンプの承認は次回6月の理事会でとなっているが、ほぼ通ることが前提での話なのか。岐阜の青年たちがキャンプをやりたいと申し出、懸命に準備を進めている。岐阜ユ内役員会でも話に挙がっている。もし次理事会で承認されなければ、岐阜ユ会員全てと青年たちを裏切ることにならないか。現状理事会では承認されそうなのか、分かっていたら教えてほしい。

<回答>

- ・正式には次回理事会での承認となるが、2014年キャンプは従来と同じく支援事業として進める方向で話が進んでいる。（松波理事）
- ・来年度の開催地は岐阜と認識した上で、予算も編成中。進行してもらって構わない。（野口理事長）
※事実承認

4. 財務戦略委員会の挙げる問題について

- ・資料内「ユ協・日ユ関係が不明確」という表現自体が不明確であり、ユネスコ協会の協力が本当に仰ぎにくいのか疑問。単位ユ協は精一杯日ユに協力をしている。協力が無いと思うのであれば認識を改めてほしいし、改めないということであれば単位ユ協はこの先協力できない。高齢化、会員数の減少、どこのユ協も抱えている問題。協会連盟も単位ユ協からのお金で動いているのではないか。

<回答>

- ・「協力」の意味合いが「公益」社団法人となったことで変わった。公益社団法人になったことで、ユ協のまとめ役としてだけでなく、事業を一緒にやろうという組織方針が加わった。これまで同様各地ユ協活動は自由で構わないが、核となる事業はみんな参加してほしい。

■みんなに知ってほしいこと&個人的感想

※評議員会について書いてありますが、あくまでも個人的解釈、印象・感想です。

各委員会の進捗を見るに、「財務～」は明らかに委員数が不十分に感じる。

「青少年～」は2月の委員会をもって事実上、解散となる。

形が変わり、青年に関するワーキンググループなどが出来る可能性はあるが、現在思案されている二〇一五年までの事業構想（キャンプ、セミナー等）が本当に生かされるか、これまでの議論の上で青少年事業が今後も構築されてゆくか、とても不安である。

文責：岐阜県ユネスコ協会 青年部「結」 石川 航
(中部ブロック選出青年評議員)